

内子町における グリーン・ツーリズムの取り組み

グリーン・ツーリズム活動の経過

内子町におけるグリーン・ツーリズム活動の原点は、昭和57年の観光農園（ぶどう園）のオープンにあります。収穫体験や旬の味覚を味わう体験の効果は、農家の所得向上だけにとどまらず、都市住民との深い絆や都市との交流を大きく牽引することになりました。

また、昭和60年に開講した「内子町知的農村塾」は、住民の「第一次産業の発展なくしては町の発展はない」との強い思いから、中山間地である内子町の農業の在り方を、農家と行政が共に学ぼうと始まったものです。内容は、農業全般に係る最新の情報や経営等について学習するもので、この塾で学んだ人たちが、その後「内子フレッシュパークからり」や「うちこグリーン・ツーリズム協会」などの立上げに係わり、内子町におけるグリーン・ツーリズム活動の中核の担い手として活躍していくことになりました。



フレッシュパークからり

グリーン・ツーリズムの取り組み

内子町のグリーン・ツーリズムの振興で、その中心的な役割を果たしている組織の1つが、平成16年に発足した「うちこグリーン・ツーリズム協会」です。現在18会員で組織され、農家民宿など宿泊施設が5、農業体験など体験施設が5、宿泊・体験の両方を提供しているのが8会員です。

各施設では、農業体験や地域の景観、自然を楽しめる体験メニューを用意し、宿泊を提供していますが、内子独自のおもてなしが都市住民から支持され、年々交流人口が増加しています。また、新たに特区を活用した「どぶろく」の製造販売を開始したほか、内子特産の果実を使った「果実酒」や「リキュール」の製造販売に向けた取り組みが行われており、大きな期待が寄せられています。

また、平成11年に、農林水産省から日本の棚田百選に認定された泉谷地区では、毎



内子町役場総務課
町並・地域振興班 班長

小野植 正久



また、平成20年度より始まった、全国50カ所の子ども農山漁村交流プロジェクトモデル地区に内子町も選定を受け、「内子わくわく体験協議会」という受け入れ組織を立上げ、体験を通じて将来の日本を担う子どもたちの力強い成長を願い、合わせてコミュニティビジネスとしての定着を目指しています。

年、地域の自然に親しむ「自然浴ツアー」が開催され、平成16年からは棚田のオーナー制度を開始し、各地から家族連れや若者のグループなどが訪れ、棚田での農作業を通じた交流活動が行われています。

また、内子町には、小田深山という4,500haにも及ぶ大自然がありますが、この自然をいかに保全し、都市住民との交流や地域づくりにつなげていくかを、深山を思い活動する方たちと共に「小田深山保全活用計画書」にまとめ、現在実践中でありま



どぶろく販売中

グリーン・ツーリズムの課題と今後の方向性

内子独自の資源を活用して交流活動を実践し、地域づくりにつなげている組織やグループは、町内にたくさんありますが、地域によって温度差があるのが実態です。こういった活動を町内全域の村並み・山並みに広げていくための連携や波及活動が今後必要だと考えています。

次に「滞在型ツーリズムへの移行」ということも重要なテーマで、多くの方に来ていただいで交流活動を行っても、農家民宿などで宿泊していただいても、全体的には、まだまだ通過型ツーリズムが大半です。滞



自然浴ツアー



ピザづくり体験（子ども農山漁村交流プロジェクト）

在型を目指し、地域資源の掘り起こしや、それらをブラッシュアップしブランド化する手法、また、交流の中に活かしていく仕組みづくりが求められます。

また、人口減少に歯止めがかからず、農地や山林の荒廃が進む現実を受け止め、今までのグリーン・ツーリズム活動がもたらした効果を検証しつつ、地域資源を活かした都市住民とのパートナーシップによる地域づくりが、内子町が抱える課題の解決に結び付くような推進方法についても考えていかなければならないと思っています。